

何故？修学旅行は日光なのか？

関東圏の多くの公立小学校が、東京電力の原発事故後も「呪文」のように、「日光市への修学旅行安全に問題なし」とし、日光市への修学旅行への不安を訴える保護者からの意見を少数意見と切り捨て、日光市へ修学旅行生を送り込んでいる事実。

厚木市も含めて、多くの教育委員会から、不安を訴える保護者への回答を読み解くと、「日光市は自然が豊かで歴史的価値を持ち、また日光市は修学旅行の受け入れに慣れており、教育委員会・校長会の独自の放射線量調査、また日光市の公式発表値に置いても、各行政の定める除染値（ $0.19 \sim 0.23 \mu\text{Sv/h}$ ）と照らし合わせても、修学旅行の中止の理由には当たらない。」とされています。

上記の内容について、日光市への修学旅行を危惧する保護者たちは、独自に土壌検査や空間線量の調査に訪れ、教育委員会の言う「安全」に疑問を投げかけています。

◆自然が豊かで、歴史的価値がある？

ここに異議を唱える人は居ません。日光市には、華厳の滝や湯滝、中禅寺湖など美しい景観を誇る豊かな自然があり、また歴史的な価値のある日光東照宮もあります。

◆修学旅行生を受け入れる体制が整っている？

こちらについては、受け入れる体制は確かに整っていると思います。

しかし、多くの市民の測定により、その宿泊施設毎に空間線量は事なりますが、原発事故から一年半を過ぎた今でも、神奈川県東央地区の空間線量と比べると2～5倍、駐車場にいたっては8倍以上の空間線量が報告されています。

◆日光市の食品測定では本当の安全は得られない

日光市が行っている宿泊施設・飲食店等の食品検査は、全ての食材をミックスしてから測定器にかける方式をとっています。

現在、多くの自治体では、安心安全な給食を提供するために、一品目ずつの食品測定を行っており、その理由は、食品をミックスしての食品検査の問題点として、食品中に含まれるセシウム量を検出しづらい（セシウム汚染されていても、それが数値として出にくい）事があげられています。

日光市は安心安全な食を提供するといいながらも、ミックス方式での測定を行い、またその測定時間は20分という短さです。これでは、子どもたちが修学旅行で内部被曝する事を防ぐことは出来ません。

食品の放射能測定では、時間をかけて長く測るほどに、食品の汚染を正しく計測する事が出来ます。

日光市が修学旅行生に食材も安心ですと言うならば、本気の測定が必然だと考えます。



清川村が昨年度利用したホテル
駐車場の数値 $0.3 \mu\text{Sv/h}$
最大 $0.4 \mu\text{Sv/h}$ をマークした